

北海道地方の3か月予報解説資料

平成23年4月25日

札幌管区気象台

(予報期間：5月から7月)

1. 向こう3か月の予想



2. 月別の予想

予想されるおよその天候経過	確率予報 (気温)	(降水量)	平年の日数	晴れ	降水
5月 天気は、数日の周期で変わるでしょう。			札幌 (日本海側)	16.9	8.6
			網走(オホーツク海側)	16.0	9.5
			釧路 (太平洋側)	15.8	8.8
6月 天気は、数日の周期で変わるでしょう。			札幌 (日本海側)	15.5	6.7
			網走(オホーツク海側)	14.1	8.4
			釧路 (太平洋側)	10.0	8.2
7月 天気は、数日の周期で変わるでしょう。			札幌 (日本海側)	14.2	7.5
			網走(オホーツク海側)	14.4	9.2
			釧路 (太平洋側)	8.7	9.6

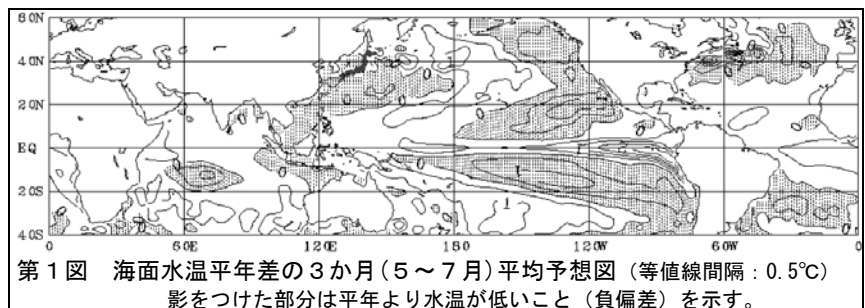
3. 暖候期予報の見直し

最近の天候経過と新しい予測資料をふまえ暖候期の天候について検討したが、2月24日発表の暖候期予報に変更はない。

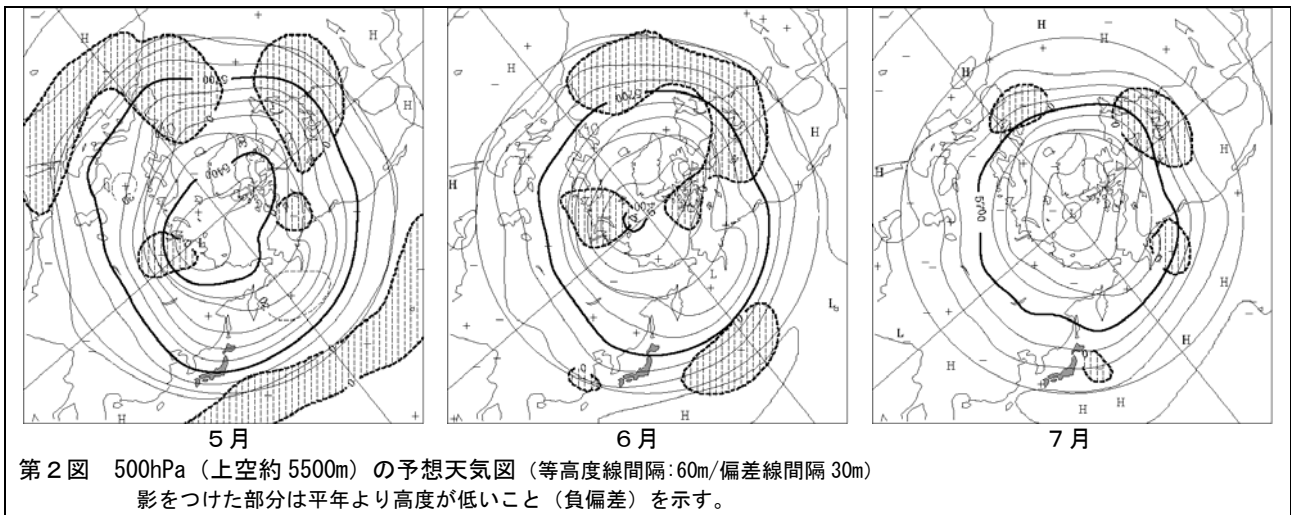
4. 数値予報資料の解説

(1) 熱帯域の海洋の予想資料 (第1図)

3月のエルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差は -0.7°C 、1月の5か月移動平均値は -1.2°C だった。3月の太平洋赤道域の海面水温は、中部で顕著な負偏差、インドネシア付近では正偏差だった。太平洋赤道域の海洋表層(海面から深度300m)の水温は、西部から中部にかけて正偏差だった。



エルニーニョ監視海域の海面水温は、春のうちに基準値に近づきその後基準値に近いかまたは基準値より高い値で推移すると予測するが、予測期間後半の不確実性は大きい。昨年夏から発生していたラニーニャ現象は春のうちに終息し、夏は平常の状態が続く可能性が高い見込み。



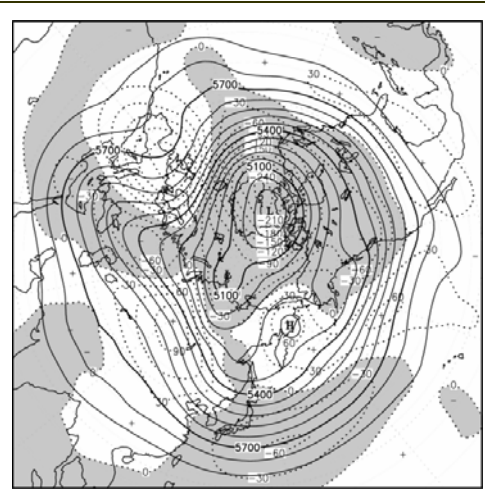
(2) 上層の大気の予想資料(第2図)

北海道付近は各月とも正偏差の中にあり、3か月(5～7月)平均では、平年より高度が高く暖かい空気に覆われると考える。このほかの特徴として、6月は、沿海州に気圧の尾根があり、オホーツク海高気圧の発生が平年程度見込まれる。また、7月は、北海道の南に弱い負偏差域があり、気圧の谷の影響で平年からの偏りは小さいが降水量のやや多くなる傾向が見込まれる。

5. 最近の大気の流れと気象経過

(1) 4月の上層の大気の流れ(第3図)

日本付近は気圧の谷の中で日本の南東海上を中心とする負偏差に覆われたが、北海道付近の負偏差は弱かった。



第3図 4月の500hPa天気図

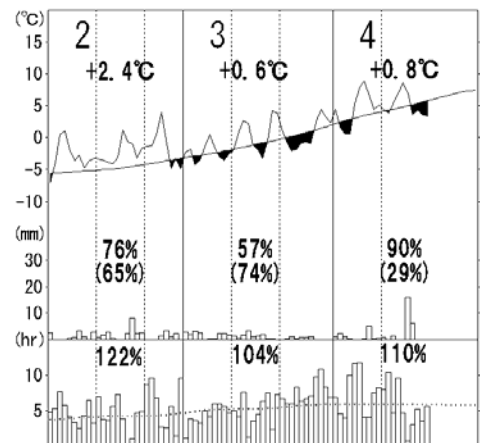
(20日までの平均。見方は第2図と同じ)

(2) 気象経過(第4図)

3月下旬: 並温・少雨(少雪)・多照。旬の前半は冬型の気圧配置や気圧の谷の影響で、日本海側を中心に雪の日が多かった。旬の後半は気圧の尾根の中に入り晴れる日が多かった。気温は旬の前半に平年を下回る日が多かった。降水量は平年を下回り、日照時間は旬を通して平年を上回った。

4月上旬: 高温・少雨・多照。天気は数日の周期で変化した。2～3日は前線の通過と冬型の気圧配置により、8日は気圧の谷の通過により全道的に雨や雪が降ったが、晴れの日が多かった。気温は旬の前半に平年を下回る日があったが、旬平均気温は平年より高かった。旬降水量は平年より少なかった。

4月中旬: 並温・並雨・並照。気圧の谷や低気圧の通過により天気は数日の周期で変化した。17日には一時的に冬型の気圧配置が強まり、日本海側やオホーツク海側を中心に雪や雨が降った。16～17日にかけての総降雪量は上川町層雲峡で45cm。気温は旬の前半は平年を上回り後半は平年を下回る日が多かった。



第4図 北海道平均日別気象経過

22地点平均の、上から平均気温・降水量(降雪量)・日照時間。数値は月別平年差(比)。(4月は20日まで)

(3) 長期積雪(根雪)の終日と平年差

稚内:4/3(早3)、旭川:4/4(早4)、網走:4/4(同)、札幌:4/7(遅4)、帯広:3/20(遅1)
釧路:3/9(早6)、室蘭:2/24(早13)、函館:3/5(早9)